

身延竹炭企業組合

組合員が真心を込めて作る 身延産「門松」大人気

ACTIVE KUMIAI



高さ5メートルの組合販売所の「看板門松」

地元の竹を使った製品の販売を行っている身延竹炭企業組合（近藤繁好理事長）では、期間限定の商品として、年末の風物詩でもある正月門松の製造と販売を行った。

組合は、身延の和田峠の荒廃した竹林をかつての姿に戻すため、竹を有効利用する手段として竹炭を作ろうと、定年退職した銀行員、建築業者、農業者など様々な経歴を持つ高齢者が集まり、平成11年7月に設立された。

現在は21名、平均年齢70歳の組合員により、自らの手で築いた炭窯を使い、竹の切り出しから炭焼、製品加工までを一貫して行い、竹炭を使った枕、清臭竹炭、竹酢液、ようかん、竹炭珈琲などの商品を開発し販売している。

門松づくりは12月初旬から始まり、毎年100組前後を販売している。今では身延町の特産品として名が知られ、県外からの注文も入ってくるまでになった。また、門松は年神を家に迎え入れるための依り代という意味合いがあり、大変縁起の良いものであることから、特に身延産の鮮やかな緑の竹と赤色ナンテンを使った門松は人気が高い。

門松づくりでは竹以外の素材も町内から調達しているが、特に、稲わらは組合員が町内の耕作放棄地を利用して作っている。門松づくりは組合員12人が作業を分担し、切った竹を組み立て、編んだ稲わらを筒状の土台に巻いたり、ナンテンや松、梅の枝を飾り付け、高さ70センチと1メートル50センチの2種類の販売用門松に仕上げている。すべて手作業で作るため、毎年注文が殺到し売り切れとなる。

来年のお正月は、身延の竹を使った門松を飾りたいとお考えの方は、早めに注文をどうぞ。各商品のお問い合わせは、電話番号0556(62)3611組合事務局まで。



切った竹を組み立てる組合員